



9月9日は「救急の日」

出動件数と搬送人員 4年連続で増加！

急な病気やケガで救急車を呼ぶケースが多くなっています。

厚生労働省と消防庁は、9月9日を「救急の日」とし、「救急医療週間」（今年は9月8日～14日）を設定し、地方公共団体、日本医師会等と協力して共催事業を行い、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めるための活動を行っています。

その目的は、①国民の救急、防災に対する意識の高揚を図る、②救急・災害現場で活躍している医療関係者、救急救命士、救急隊員等の活動を広く国民に知らせることにより、救急医療、救急業務、小児救急、災害救助等に対する正しい理解の普及向上を図り、救急車の適正な利用、自主防災思想の普及啓発を図る、③救急蘇生法についての正しい知識、技能の普及啓発を図り、「いざ」というとき、誰もが応急手当を行うことにより、傷病者の救命率の向上等に寄与する、が挙げられています。

平成24年における救急自動車による救急出動件数は580万2,039件（対前年比9万4,384件増、1.7%増）、

搬送人員は524万9,088人（対前年比6万6,359件増、1.3%増）で、救急出動件数、搬送人員ともに4年連続の増加で、過去最多を記録しました。

救急出動件数のうち最も多かった事故種別は急病（364万7,203件、62.9%）、次いで一般負傷（82万8,382件、14.3%）でした。なお、搬送人員で最も多いのは急病（329万6,522人、62.8%）、次いで一般負傷（75万6,177人、14.4%）でした。

出動件数は、平成18年、平成20年に一旦減少したものの増大の一途をたどっています。

年間出動件数および前年比増減率の推移

総務省消防庁「平成24年の救急出動件数等（速報）」より

